

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	31	学校名	清水東高等学校	記載者	山田 竜二
------	----	-----	---------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	いじめの根絶	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対するトラブルの事前防止 ・いじめへの対処の確実な実施 ・ネットに関係するトラブル：0件 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答える生徒の割合：95% ・いじめに対するトラブルの事前防止 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPにおける「いじめ防止基本方針」の掲載について具体的な規定はないがHPトップからワンクリックで見ることが可能な設定にしておくことが望まれる。他校において、いじめの重大案件が発生し、被害者側から周知の不十分さを指摘された事例がある。 ・いじめの重大事案（昨年度から継続）があるとのことで、評価Bで仕方ないか。 ・いじめ案件が今年度0件は喜ばしい。
	授業中、部活動中、登下校中(特に自転車)の事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の事故0件 ・登下校時の自転車事故件数2割減 ・職員対象のAED講習会の実施 ・校内活動中に熱中症重症者を出さない。 ・「保健日より」毎月発行 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の管理、生徒の自己管理ともに良い。 ・登下校時の交通安全指導については、過剰に啓蒙することが求められる。たった1件の重大事故で日ごろの指導が評価されなくなる。 ・ヘルメットの着用については推奨を続けていく必要があるのではないかと思う。 ・今後ヘルメットの着用の推進等検討されたらどうか。
	防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・Cラーニング、Googleクラスルームによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施 ・防災訓練を年2回実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、清水区役所も避難場所指定から除外されており（老朽化のため）各校舎群の個別な対応も必要になるかも。
	学校施設の環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：85% 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は地震や集中豪雨等の災害が各地で起こっていて身近な問題となっている。本校も災害が起こった場合、地域から役割を期待されると思いますので、職員、生徒の皆さん共に学校全体で備えを進めていってほしいです。災害を経験された方を招いての職員研修会等、経験者の実体験は役立つと思います。
	感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答える生徒の割合：85% 	A	A	
イ	BYODによるICTを活用した授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるICT機器活用：100% ・教育用アプリ（ジャパナレッジスクール、ロイノートなど）の活用：90% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・取組目標として、広報活動が優秀な生徒募集につながる事が掲げられている。探究活動の掲載は素晴らしいことではあるが、工夫を重ねていただきたい。 ・ICT活用について今後も継続を期待する。 ・ICTとITの差、コミュニケーションを大切に

様式第5号

	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を中心に教務部記事を月1回のペースで掲載する。 	B	A	<p>にしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活動状況について、十分掲載、適切な更新がなされている部もあれば、いっさい掲載のない部活動もある。アンケートでも指摘されている。 民間企業においてもHPは重要視されています。学校、本学、同窓会、部活動それぞれが足並みを揃える方向に。
ウ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が講義形式に依らない授業展開の工夫を实践する。(各自学期に1回以上) 生徒による授業評価を年2回実施 年間2回以上、他の教員の授業を見学した教員の割合：80% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 世間では、「非認知能力の向上が必要」と話題になるが、認知能力と非認知能力の往還が生徒を育て、社会で求められる人材の育成につながる。 「授業」という言葉にはたぶんに一步通行のイメージがあるが、「受業」との双方向性が感じられ、それこそアクティブであると言える。 授業評価結果を授業展開の工夫に取り入れて行ってほしい。 教員は、学びに対する「主体性」「対話」そして「深い学び」に対する理解と、具現化する手法を身に付けることが求められる。それ以上に教員間の共有が効果的と考える。 教員相互の授業見学が80%を割ってしまったことは残念である。過去にはない試みで嫌がる教員もいるかもしれないが、ぜひ前向きに進めてほしい。
	4校合同研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> 参加教員により、研修内容を各教科・分掌で共有する。 	B	B	
エ	SSH新制度の研究	<ul style="list-style-type: none"> 年間の指導計画と評価法を完成させる。 本校のSSHの在り方、方針を立案する。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 新たなスタートと認識し、これまでと同等、それ以上の教育効果が図られることを期待しています。 「清高メソッド」の完成は関係諸氏の並々ならぬ努力を感じられる。 SSHの活動は、本校にとっての“強み”として特徴ある取組を今後も継続して行って欲しい。 昨今の児童生徒の理科離れの半面で、女子の理系進学が増加傾向にあると聞く。将来の日本にとって非常に心強いことである。
	SSH活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「課題研究を中心としたSSH活動は有意義である」と答える生徒の割合：80% 不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5点(4点中) 国立遺伝学研究所訪問(実施できない場合は代替行事)は有意義だった」と答える生徒の割合：80% 	A	A	

様式第5号

オ	欠席、遅刻、早退の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席数が過年度平均の8割以下となることを目指す。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果として、「信頼できる先生がいる」が①と②の合計が86.9%であるが、①の割合が低い。この項目においては①と②の合計で判断できない項目と考える。 ・不登校の原因は小中学校でも問題になり、様々である。 ・学校生活に満足している生徒が89.7%ということは、利用空間の問題がありながらも、やれることは徹底しようという学校の姿勢が読み取れる。 ・メンタルの問題を抱える生徒への丁寧な対応を今後もお願いしたい。 ・部活動の活躍は素晴らしい。真の文武両道の価値を捨ててはいけないと思う。外部に大いに広報するだけでなく、校内において日ごろの承認が効果的と思われる。 ・部活動の充実を生徒達が評価していることが大変すばらしい。 	
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：80% 	B			A
	部活動の充実、成績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会5部活、県大会10部活出場 ・「部活動が充実している」と答える生徒の割合：75% 	A			A
カ	基礎学力の定着 (校内学力試験の利用)	今年度の評価結果について分析する。 <ul style="list-style-type: none"> ・テスト返却1週間後の個票返却 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：85% ・「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実績をデータとして捉え、素晴らしい成果を残した卒業生の在校時の高校生活（学習や諸活動）にどのような特性がみられるのか抽出することで、これからの指導の質が変わると思われる。貴校においても十分取り組まれてきたと思うが、特性を複数抽出することで、現在の生徒、個々への対応が可能となる。教師としての経験に基づいた感覚に勝るものはないが、データとして可視化することで若手教員の育成につながると考える。 ・土曜日の駐輪場の自転車を見ていたが、「土曜講座」であったかと知った次第である。生徒の向学心を大切にしたい。 ・各項目とも指導の有意性を答える生徒が、学校の目標を超えている。それは生徒各自の将来への真剣さと、それに応える学校の努力の成果である。学校評価を高く保つ礎となる。 ・個に合った進路指導の充実が着実に進められている。進路への意識を早い段階から高められるような体験を今後も検討して欲しい。 	
	個に合った適切な進路指導、進路面談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80% ・オープンキャンパスへの2年次までの参加：90% ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70% ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80% ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：80% ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：80% 	B			A

様式第5号

		<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80% ・「大学・研究所等の訪問は意義があった」と答える生徒の割合：75% 			
	個の実力にあった文理選択（1年生）	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料&合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：75% ・不本意な文理選択となる生徒を出さない指導を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報を生徒に与えて進路選択の手助けをすることは極めて大切である。ことは文理の大きな選択だけではない。生徒が、自分は何に向いているのかを判断するのはなかなか難しいとは思うができるだけのサポートをお願いしたい。
キ	生徒会活動、ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：80% ・各部活動で1回以上ボランティア活動を実施した割合：80% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭の企画運営は生徒が行っているだろうから、その成果に92.4%が満足しているのは良いことである。 ・ボランティアに関する情報収集については大学との連携も効果的と考える。 ・海外ではボランティア活動を単位取得にもつながる。日本ではまだ足りていない。近隣の学校にはボランティア部もある。清高でも検討してはどうか。 ・ボランティア活動への参加率の向上の為、本学のみが行動するのではなく、他企業との協力を考えたい。 ・学校祭、研究旅行に対する生徒の評価が高く、学校生活が充実していることがわかり、すばらしい。達成感ある取組を今後も進めて欲しい。
	研究旅行の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：80% 	A	A	
ク	休暇取得促進日の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合：90% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の超過は決して良いことではないが、教職員のエンゲージメントを高めていくことが大切だと思う。 ・組織内にミッション、ビジョン、バリューの共有があり、心理的安全性が担保されていることが求められる。貴校は十分、確保できていると思う。 ・休暇取得促進日を設けることは教員に休暇の意識を持ってもらうためにも良い取組である。休暇を取りやすいように改善を進めて継続して行って欲しい。 ・休暇取得促進日として一斉に休暇を取るとは難しいのではないかと。 ・19:30以降残留する職員の減少は個人の範囲で業務の適正量を調節できるから良いことである。 ・仕事が減らないと難しいですね。
	業務の見直し、スクラップの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷紙の使用量1割減を目指す。 ・19:30以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。 	B	B	

様式第 5 号

ケ	事務室運営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・各事務職員が 1 件以上の業務改善を提案 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な事務処理が行われていることで、学校運営がなりたっており、感謝申し上げます。 ・コンプライアンスの徹底は当然のことで、大事なものはチェック機能の保持である。また個人情報の適正な管理が望まれる。
	法令順守の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・現金の適正な管理のために支払い、決算報告等はわかりやすい文書の作成に努め残金の迅速な返金処理等を行う。 ・個人情報の適正な保管による紛失及び漏洩事故ゼロ 	A	A	
	安全安心な教育環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・月 2 回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のみやかな改修 ・的確な移転計画資料を作成する。 ・計画的な備品等の購入 	A	A	